

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」成果報告書

受託団体名	宮城県教育委員会
-------	----------

I 概要

1 モデル地域の概要

①モデル地域の種類 ※Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型のいずれかに○を付してください。

<input type="checkbox"/>	Ⅰ型（連携型：特別支援学校高等部及び高等学校の連携）
<input type="checkbox"/>	Ⅱ型（単独型：特別支援学校高等部のみ）
<input checked="" type="checkbox"/>	Ⅲ型（単独型：高等学校のみ）

②モデル校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名（ふりがなを付すこと）
宮城県	高等学校	定時制	みやぎけんひがしまつしまこうとうがっこう 宮城県東松島高等学校

2 研究課題

高等学校において、発達障害等の障害を有する生徒へのキャリア教育・職業教育を推進し、労働や福祉等の関係機関と連携しながら就労支援の充実を図る実践的な取組を行う。

3 研究の概要

平成26年度における本事業の実施に際しては、人間関係づくりに不安を抱える生徒への手厚い支援等により、就職希望率・就職達成率の向上を目指し、以下のような研究項目に取り組んだ。

1 教員の特別支援教育に関する意識向上

(1) モデル校である東松島高校における教員研修会や先進例視察等の実施

①教員研修会（特別支援教育研修会）の開催

- ・「発達障害の生徒に対する指導・支援について」（講師 臨床心理士）

②ソーシャルスキルトレーニングに係る先進例視察

- ・東京都立穂ヶ丘高等学校、千葉県立千葉南高等学校、千葉県立船橋法典高等学校、千葉県立泉高等学校

③特別支援教育に係る取組視察等

- ・徳島県教育委員会による「発達障がい研究会」、徳島県立みなと高等学園
- ・文部科学省による「発達障害の可能性のある児童生徒等に対する支援事業報告会」への参加
- ・文部科学省による「発達障害者支援関係報告会」への参加

(2) 生徒向け講演会や就業体験等の実施

①新入生オリエンテーションにおけるコミュニケーションセミナー（ソーシャルスキルト

レーニング活動)

②アサーションを取り入れた講話等によるいじめ防止LHRの実施

③就職希望者による職場訪問の実施

2 特別な人員の配置による発達障害等のある生徒への個別的支援の充実

(1) 就職支援コーディネーターの配置によるソーシャルスキルトレーニング等を通じた個別支援の実施

①コミュニケーション及び社会人マナーに係る講座の開催

②支援を必要とする生徒への個別支援としての相談活動及び面接指導

3 モデル地域である石巻市・東松島市における関係機関・団体との連携強化

(1) 就職支援ネットワーク会議の設置・開催

(2) 宮城県立石巻支援学校との連携強化

(3) NPO法人石巻地域若者サポートステーションとの連携強化

4 研究の成果

1 教員の特別支援教育に関する意識向上

モデル校である東松島高等学校では、以前から不登校等の学校生活上の困難を抱える生徒への細やかな指導を目指し、それらの背景にある各種要因について教員の理解を進めることに取り組んでおり、特別支援教育についても校内で一定の理解が図られていたが、本事業における、外部講師による教員研修会開催のほか、先進校等の視察、各種研究会等への参加を通じて、教員の特別支援教育に関する意識がいっそう向上した。また、これらの研修等に係る資料を、校内ネットワーク上で共有化することで、教員個々が必要に応じて研鑽できる環境づくりも行った。

こうした意識の高まりに応じて、例えば、授業中に気になる言動をとる生徒に対する指導や支援の在り方を検討するケース会議を時宜を逃さず開催したり、教育相談場面から浮かび上がった支援を要する生徒に対して、就職支援コーディネーターをはじめスクールカウンセラーなどと、担任や学年が連携をしながら、組織として課題克服のための指導計画を立て実践を進めたりするなどの、発達障害等の疑われる生徒への個別支援を徐々に組織的に行えるようになってきている。

2 特別な人員の配置による発達障害等のある生徒への個別的支援の充実

就職支援コーディネーターの配置による、特別な支援を必要とする生徒への就労支援を意識し社会や職場で必要とされるコミュニケーションスキルや社会人としての常識を身に付けることをテーマにした、ソーシャルスキルトレーニングやアサーショントレーニングを生徒個別に行い、全体指導だけでは身に付けさせることが難しい社会生活や職場で必要とされるスキル等の必要性を各自に実感させることができた。また、アサーショントレーニングについては、人間関係づくりをテーマに新入生を対象とした講演会で実施したほか、「生徒指導だより」を利用し、学校生活の身近な場面でのアサーションによる対応方法を継続的に紹介し、啓発を図った。

3 モデル地域内における関係機関・団体との連携強化

就職支援コーディネーターを中心として、石巻地域若者サポートステーションとの連

携を強化し、外部機関のもつ特徴を活用した全体指導に取り組んだ。日常的に連携が図れたことで、ソーシャルスキルトレーニングやアサーション活動について丁寧な指導助言を受けることができ、生徒にとって意義ある実践ができた。

就職支援ネットワーク会議の設置・開催までの関係機関との準備段階の打合せや会議の場において、発達障害等の考えられる生徒の就労支援体制として、どのような仕組みを構築するのがよいか、将来的な姿も含めて検討した。地域にどのような機関があるのか、それらはどのような特徴をそれぞれもっているのか等、就職支援コーディネーター、又は学校がこうした情報を確実に有した上で、石巻支援学校やハローワークとの強固なつながりを軸としながら、早期から生徒個々の状況に応じた支援を具体的に展開していくことが重要であるとの方向性を見いだせた。

5 課題と今後の方策

本事業の計画では、支援を必要とする生徒への個別支援を手厚く行うことで、全体としての就職希望率や就職達成率を向上させることを目的に研究に取り組んだが、卒業年次を直接の対象とした実践では十分な効果が得られるまでにはいたらなかった。高校生活3年ないしは4年を見通しながら、段階を踏んで計画的に取り組む、社会的スキルの確実な獲得と定着を図ることが改めて重要であるとの認識にいたった。

人間関係づくりやコミュニケーションに不安を抱える生徒の中には、中学校までの不登校により、十分な対人関係等を経験していないことから、どのように振る舞ったらよいのかということについて未熟な状態である者も多い。一方、不登校が、人間関係のトラブルに起因しているケースも多く、この場合、何らかの障害等により他者への対応が行えないことから発生しているという事例が圧倒的に多い。

こうしたことを勘案し、今後は、全校生徒に対して社会的スキル獲得のためのプログラムを実施することで、円滑な人間関係を築くための基礎的な力の養成を図り、その上で、特別な支援を必要とする生徒に対する個別の教育支援計画等に基づく支援を行うことで、就労意欲の喚起と進路希望実現の達成率の向上を目指していくこととしたい。また、そのために必要となる、校内外の支援体制・支援方法の在り方を研究、実践し、広く本県内への普及を図り、高等学校における特別支援教育の充実に資するものとしていきたい。

※宮城県では「障害」を「障がい」と表記